

〈福祉〉とは、幸せ、豊かさ。それを表現するヒントを教えてくれる人・物・事を、次の4つのキーワードに沿って紹介します。

- # コミュニケーション ▶▶▶ 心理的な壁をなくす、やさしさを育む
- # 暮らす ▶▶▶ 安心できる居場所や暮らしをつくる
- # はたらく ▶▶▶ 自分らしく活動する、成長する
- # 食と健康 ▶▶▶ 食を大切に健やかに生きる

#暮らす #はたらく

メンタルクリニックと協働する 不動産屋さんが考えていること ～アオバ住宅社、齋藤瞳さんのその後～

※2021年5月号掲載「File1 不安に向き合ってくれるまちの不動産屋さん」の続編です。

不動産業の枠からはみ出す

この夏、2021年5月号で紹介したアオバ住宅社の齋藤瞳さんさいとうひとみから、こんなメールが届きました。

“実はこのたび、私ごとではあります
が、精神科クリニックのソーシャルワーカーとして活動しながら、同建物内で宅建業を営むことになりました。精神障害のある方は私のお客様の中でも最も部屋探しが難しく、自立の後押しのためには医療との連携が重要だとずっと思ってきましたが、このたび色々ご縁

があってこのようなこととなりました。今後はやれることももっと増えると思いますので、気を引き締めて邁進していこうと思っています。”

不動産屋である前に「齋藤瞳」という一人人として、困りごとを抱えた人たちに向き合い、“一生お付き合いする不動産屋”を続けてきた、齋藤さんらしい展開だと思いました。

いまから8年ほど前、アオバ住宅社を立ち上げた当時は、福祉制度に関する知識がほとんどなかったという齋藤さん。それが、ある生活保護受給者の部

屋探しを手伝ったのをきっかけに、障害のある人、DVの被害者、児童養護施設退所者、刑務所出所者など、ほかの不動産屋では部屋を貸してもらえなかった人たちが、口コミで訪ねて来るようになりました。

「物件が決まって『はい、サヨナラ』っていうのも、なんか寂しいね」

以前、そう話していました。部屋が見つかったらその人の自立に向けて、行政や福祉サービス担当者、まちの人たちとのつながりをつくりながら、みんなでその人を見守る体制を、齋藤さんは築いてきたのです。



◀アオバ住宅社の齋藤瞳さん(左)の新たな拠点は「しろくまメンタルクリニック」(横浜市旭区)。院長で精神科医の大熊麻起子先生(右)は熊本大学医学部出身で、医学部入学前に京都大学大学院文学研究科の修士課程を修了している、医師としては珍しい学歴の持ち主。「大熊先生に何か相談すると、歴史書や偉人の教訓などを引き合いに出しながら、“斜めの角度”からの意見をくれるので、気づかされることが多いです」と齋藤さん。▼クリニックが入っている建物の1階では「アイスバーカフェ」を運営。精神障害者の就労の場にしたり、勉強会を開いたりするなどして、地域にひらいた場にしていく予定。

